

編集後記

『眞實心』第二十三集をお届けします。平成十三年度、新入生対象の学長講話、および四回の宗教講座の計五編が収められています。

皆さんは本学で仏教を学ばれ、宗教講座などを聴かれたわけですが、宗教というものの、また仏教というものを見直すきっかけになつたでしょうか。

皆さんの中には、自分は仏教とは無縁だ、宗教なんて必要はないと思っている方がおられるのではないかと思います。けれども学長講話と宗教講座を聴かれた方は、仏教が私たちの人生と決して無関係ではないということがお分かりになつたのではないでしようか。

科学技術の進歩は物質文明をもたらしたのですが、今日、世界のあちこちで飢餓や紛争、テロが起り、国内でも人の生命をあまりにも軽視した殺傷事件や少年犯罪が頻繁に起こっています。自ら生命を絶つ少年少女も少なくありません。何か大切なこ

とが忘れられているのです。このような状況の中では自分は、あるいは自分たちはどのように生きればよいのか。このように考えるとき、仏教の教えが一つのヒントになるのではないかと思います。

最後になりましたが、ご講話をお願いしました先生方には、ご多用の中、原稿にお目通しをいたいたことを厚く御礼申し上げます。なお、本文の文責はひとえに編集委員にあることをお断りしておきます。

(編集委員)